

SSH×探究活動 NEWSLETTER

＊

＊



テーマ検討会の実施

11名の大学の先生にお越しいただき、2年生のテーマ検討会が行われました。言葉の定義や研究・探究の方法など多くの「ツッコミ」をいただき、探究や研究のテーマを深めています。ここでの仮設設定が今後の活動の深みにつながることは必然です。じっくり悩んで、調べてほしいです。

UPCOMING EVENTS

- ＊ “未来都市とまちづくり”について
July 10, 2026 校内実施
第一部: 基調講演「未来都市と街づくり」出口 敦/東京大学副学長
第二部: まちづくりの企業実践
校内Zoom視聴を予定
- ＊ 高校生のための森と海のゼミナール
July 24～26, 2026
東京大学千葉演習林・千葉大学海洋バイオシステム研究センターの共催で、環境問題や生物多様性について、観察や講義を行うゼミナールが行われます。
6月30日15:00締切です。
参加費: 9,000円
詳細はClassiにて
- ＊ OIST研修 説明会
June 25, July 9 昼休み実施
沖縄科学技術大学院大学でALL Englishで本物の研究に触れよう!



今月のトピック

写真: 自然科学領域の発表

伝える熱意を、真の「科学的探究」へ昇華させる

3年生の活動

先日、3年生によるSSH口頭発表会が開催されました。ステージに立った生徒たちの佇まい、スライドの構成、制限時間内で研究内容を伝える表現力は、これまでの積み重ねが確かに感じられる発表でした。しかし、私たちはここで「上手な発表だった」と満足して立ち止まるわけにはいきません。

社会に通用する知性を磨くためには、研究の「中身（アプローチ）」をさらに高い次元へと引き上げる必要があります。真の社会科学とは、主観を排除した「科学」です。「〇〇%の人が困っている」という事実の先にある、「なぜその困りごとが起きているのか」という背景の因果関係に踏み込ま

なければ、実社会を動かす解決策にはなりません。今後は、単一の質問の集計で満足せず、「性別×意識の差」「年代×行動の偏り」といったクロス集計を駆使したり、行政の公的統計（マクロデータ）と自分たちの調査結果（ミクロデータ）を対比させたり、既存の社会理論と結びつけて論理的に考察する「客観的なアプローチ」への挑戦を続けていきます。

自然科学領域では、綿密な実験を繰り返し、精緻なデータを導き出している班もありましたが、試行回数や追加実験の計画など思い通りにいかなかった際にどう計画し直すのか、実験をやっておしまいにならない研究にしたいと感じました。

Message from the Chief

大学の先生からの指摘を受け止め、自らの探究の手法を客観的に見つめ直し、戦略を修正する（自己調整していく）。この試行錯誤のプロセスこそが、生徒たちを「本物の科学技術人材」へと育てていく一歩と考えています。